

一貫だより

第546号 平成26年 8月 4日

〒701-1153 岡山市北区富原798 ☎253-2687

一貫塾夏期特訓が順調に始まりました。今年もそれぞれの学年に設けられた目標に向かって、みんながんばってくれています。8月前半戦は9日で終わりますが、体調にも注意して、後半18日につながるよう、学習指導を続けたいと思います。個別に少し課題も出します。

一貫塾の中学生のみなさんには、この夏、1学期内容の定着や前学年の復習、受験のための学習。そういった目標のため、夏休み中の中1は1日少なくとも3時間の学習・中2には4時間・中3受験生には5時間の受験勉強を目標に学習指導しています。

従って、中3には、夏40日間で、200時間の学習を要求しています。中学校の補習で家庭で、塾で、学習時間の確保を目標に指導しています。素直にこの目標をこの夏の生活リズムに組み込んでくれた塾生は、結果早い者は

夏休み中盤にお盆休み明けには、『先生、学校で出された宿題は全部すんだよ。』

『何か課題をください。』一貫塾は、このタイミングを待っているのです。そこで、苦手な教科の克服であったり、得意教科をもっと伸ばしたり、受験生には、じっくり県立・私立の入試問題を解かしたりと、一貫塾の本当の夏目標が始まります。しかし、今年度の受験生は、個々違ってはいるのですが、中3受験生の、4名が眠い目をこすってがんばっています。が、塾での勉強時間が取れていない受験生もいます。それに反して小学生や中1や中2が、早起きして、学習の生活リズムの中に早朝勉強会を組み入れて、一日を過ごしてくれています。この子達の大半は、小4の時小6の時、先輩達が早朝から学習リズムを作って頑張っている姿を見てきたからでしょう。毎年、夏の目標にほど遠い塾生の言い訳に朝が苦手・家が遠い・部活で、色んな被害届があります。が、過去、夜型だった受験生がこの時期から朝型に変えて飛躍的に学習量がふえた子。家は遠かったのだが、通うと決めて、夏40日間でやり抜いた子。陸上部の練習後は塾で必ず3時間過ごした子。こうした子の2学期からの過ごし方。受験校の決め方。最終結果。ど



【一貫だよりに掲載するイラストの募集しています】

れを取って見ても失敗や間違いはありませんでした。200時間は無理な要求ではありません。コツコツ積み上げてきた学習が、力とならないはずがありません。あと少しがんばって続けてください。

一貫塾塾生にますます学習意欲高まる

夏休み宿題勉強会・早朝勉強会。この間の勉強会への参加者は

7月 19日	9名	31日	5名
22日	7名	8月 1日	8名
23日	8名	2日	7名
24日	7名	4日	名
25日	8名	5日	名
26日	10名	6日	名
28日	10名	7日	名
29日	8名	8日	名
30日	7名	9日	名

以上のような参加状況でした。

一貫塾の夏も中盤折り返し地点がこようとしています。一貫塾の小・中学生にとって毎年、夏休みに十分な1学期の復習と1学期より数段複雑に高度な内容に進む2学期への体力づくりのために夏休み中の通常授業18時間・夏期の特訓30時間あわせて48時間の一貫塾での学習時間を目標に授業が続いています。この夏塾での学習時間が200時間を越えそうな中3が1名います。今年までの過去10年で、現岡大生のHさんの287時間が最長の記録として残っています。当時、これだけ我慢して、頑張れる子には、ぜひとも県立自己推薦で合格させたい。悪くても一般入試にはと、いつも思っています。今年の中3は、どれだけ私一貫にプレッシャーを感じさせてくれるのでしょうか。この夏どれだけ受験準備ができるか。楽しみです。

小4から中3までのみなさんには、全国学力テスト対策教材のA p a l / B p a lをお盆休み中の課題・模試受験日までの課題として、配布しています。この教材だけでも、自分なりにきっちり仕上げると、模試の成績結果が、格段に飛躍した先輩たちが、何人もいます。朝の勉強会で、1問1問質問しながら仕上げている塾生もいました。今回は、後半夏期特訓・通常授業での答えあわせも予定していますので、いつもと違い、特訓初日にお配りしました。しっかりやって、授業で、解答・解説したいと思います。

①授業ノートの取り方

小学校のときと違って授業で習う内容も格段と多くなり、先生の説明を全部ノートに書き写そうとするのは大変です。ポイントをおさえ、要領よく書き取るテクニックを身につけ、学力アップにつなげていこう。そのためには、重要点をマークしてそれをどうノートにまとめていくかがポイントになります。小学校では「ここをノートに写しなさい」といってくれる先生が多かったのですが、中学校では口での説明が中心の先生もいるので、黒板に書かれたことだけをノートすると後で見てもさっぱりわからないこともあります。先生が「これはテストに出す」とか「ここは大切だからしっかり覚えるように」と強調したことは書きもらさず、必ずノートにマークしておこう。そのとき、後でテスト勉強に役立つように、どこが重要点かわかるようにしておくのがコツです。

②重要点はマーカーで

家でノートをまとめなおすときに、「重要点はマーカーを使って目立つようにしている」という先輩が多くいます。これは授業ノートを読みかえしながらマーカーでチェックしていけば、授業の復習にもなるからです。当然、授業中に配られたプリントや資料ものでノートに張り付けて、要点や注意点をマーカーで目立つようにまとめていきましょう。

③ミスは消さない

練習問題でまちがえたところを消しゴムできれいに消して書き直すのが好きな人が多いのですが、赤ペンや青ペンではっきり訂正して間違った部分を残しておくことが大切です。こうしておけば、自分がどんなミスをしやすいのかが一目でわかるし、テスト勉強の時に、弱点中心の勉強もできるからです。答をミスしたときは、答の訂正だけでなく、途中の計算式のところもペンで正しくやり直しておきましょう。これでうっかりミスで間違えたのか、解き方がわからなくて間違えたのかもすぐわかるでしょう。

④継続は力なり

どんな教科でも、ノートをきちんと取るという原則を自分の中で決めてください。また、ノートはあまり厚いものは買わずに、すぐ終わって2冊目のノートを作れるのがいいです。そうすれば、小さな達成感も味わえ次へのやる気につながります。さらに、ノート代は考えなくて、片側のページは訂正だけに使うのもいいでしょう。

⑤（ある先輩から）

小学校のころは、どこもかしこも全部、いろんな色を使って線を引いていましたが、中学生になってからは2色ぐらいしか使いません。あまりたくさん線を引きすぎるとどこが本当に大切なのかわからなくなってしまいますからです。試験前にノートをまとめる時も、大切などころにしばってまとめるようになりました。

⑥（ある先輩から）

ノートは教科別に分けています。ルーズリーフは途中でよくなくしてしまうので、使うのをやめました。ノートは、数学と英語だけは、ノートの左側は塾で使って、右側は学校の授業で使っています。そうすると、学校で急にあてられたり、塾や学校をお休みしてしまった時に、どこがわかっているか、習っていないか、はっきりするので、後でもう一度質問するのに便利です。

以上、中1のみなさんに2学期からのノート作りを提案いたします。もしかすると英語は中学校の決まったノートがあるかもしれませんが、各教科で1冊でも2冊でもこの提案を聞き入れてノート作りを始めてみましょう。

○丸つけで力を着ける人・へたな人

長くて短い夏休み。サマーワーク（課題）が始まりました。こうした課題でグングン力を着ける人とそう力が着かない人に分かれてしまうのはなぜでしょう。

こんな人はいませんか？

■丸を着けることに快感を覚え、丸だけ大きく着けている人。

■○×○×はい、おしまい。の人。

■答えを赤ペンで、ひたすらきれいに写すだけの人。

せっかく長時間かけて頑張った課題2ページをどう生かすかは、丸着けにかかっています。国語や数学・理科の1分野などは、どうしてそうなるのか、答えに行き着くまで解説を参考に解決しなければなりませんし、社会や英語・理科の2分野などは、答えあわせが、覚え込むチャンスです。

やはり丸着けのうまい人とは、問題を解くのにかけた時間と同じくらいの時間を丸着けにかけている。レベルアップの方法を知っている人なのです。

これから夏の後半戦、答えあわせの機会が増えてきます。ぜひ、『丸着けの達人』になってください。